



平成 20 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社アイディーユー  
代 表 者 名 代表取締役社長 池添 吉則  
(コード番号: 8922 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 取締役管理本部長 岩 眞司  
電 話 番 号 (06) 6452 - 7771 (代表)

### 特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 4 月 14 日に公表しました平成 20 年 8 月期(平成 19 年 9 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日)の特別損失の計上及び業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 特別損失の計上について

当社は、不動産インターネットオークションの企画・運営会社として、従来からオークション市場への商品供給を目的として、様々な不動産投資を行って参りました。

しかしながら、サブプライム問題の長期化に起因する金融市場の信用収縮並びに金融機関の不動産案件融資厳格化等により、昨今の不動産市場においては、不動産取引価格の下落や流動性の低下が急速に進行しており、現況においては収益の確保が難しい環境であると考えております。

そこで当社は、限られた経営資源を有効活用すべく選択と集中を行い、投資事業の大幅な縮小及び積極的な新規投資を行わない方針とし、平成 20 年 6 月 30 日付にて当社の不動産投資開発事業の全部を会社分割により子会社である株式会社アイディーユープラスに承継し、平成 20 年 9 月 22 日に当子会社の全株式の売却を決定いたしました。当子会社株式の売却に伴う譲渡損として、3,061 百万円を特別損失として計上することを見込んでおります。

また、上記の経営環境及び物件の保有リスクを鑑み、保有物件の早期売却、現状保有している棚卸資産については、早期に売却可能な価格を想定して評価の見直し、固定資産の評価額を保守的に見積もった結果、評価損及び減損損失として、連結においては 15,377 百万円、個別においては 8,923 百万円を特別損失として計上することを見込んでおります。

## 2．平成 20 年 8 月期通期の業績予想数値の修正(平成 19 年 9 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日)

### ( 1 ) 連結業績予想の修正

( 金額の単位：百万円 )

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 ( A )	30,000	2,200	1,000	3,800
今回修正予想 ( B )	23,645	4,557	5,769	26,122
増減額 ( B - A )	6,355	6,757	6,769	22,322
増減率 ( % )	21.1	-	-	-
前期実績 (平成 19 年 8 月期)	53,404	5,459	4,158	2,301

### ( 2 ) 個別業績予想の修正

( 金額の単位：百万円 )

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 ( A )	16,000	1,300	450	3,900
今回修正予想 ( B )	8,132	8,026	8,812	22,887
増減額 ( B - A )	7,868	9,326	9,262	18,987
増減率 ( % )	49.1	-	-	-
前期実績 (平成 19 年 8 月期)	37,562	3,707	2,950	2,294

## 2．修正の理由

### ( 1 ) 連結

今期中間決算発表後不動産インターネットオークションの企画・運営に集中し、様々なサービス（クローズドオークション、買取保証サービス、海外投資家向けオークション）を開始いたしました。しかし、サブプライム問題に起因する金融市場の信用収縮、不動産価格の下落を憂慮した買手の買い控え、また売手としては、債務の全額が返済できるまでの売却価格まで達していない等により、物件の流通量が予想以上に減少し、当社の収益源でありますプレミアムオークション（海外含む）においては、前期比 40%を超える出展額を確保したものの、買手と売手の売買希望価格差の拡大に加え、落札後のローンアウトによるキャンセルの発生により落札額が減少したことから、売上に占めるフィー収入が低下いたしました。

保有物件の売却におきましても、全国的な不動産価格の下落基調の影響を受けて保有資産の中には価格下落が著しい物件もありましたが、さらなる不動産保有リスクを鑑み早期売却を実施したことから、中間期末時点で計画していた物件の売却額には到らず、売上高は業績予想値を下回る見込みであります。

また利益面については、販管費を削減するなどコスト圧縮に努めたものの、売上高の減少に伴い営業利益及び経常利益につきましても業績予想値を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、上述の通り子会社株式譲渡損 3,061 百万円を、現在保有している棚卸資産及び固定資産に関する評価損及び減損損失 15,377 百万円を特別損失とし

て計上することにより業績予想値を下回る見込みであります。

この結果、通期については、売上高は前回業績予想比 6,355 百万円減の 23,645 百万円（前年同期比 55.7%減）営業利益は前回業績予想比 6,757 百万円減の 4,557 百万円（前年同期は営業利益 5,459 百万円）経常利益は前回業績予想比 6,769 百万円減の 5,769 百万円（前年同期は経常利益 4,158 百万円）当期純利益は前回業績予想比 22,322 百万円減の 26,122 百万円（前年同期は当期純利益 2,301 百万円）を見込んでおります。

## （２）個別

個別業績については、連結とほぼ同様の理由により、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益いずれも業績予想値を下回るものと見込んでおります。

この結果、通期については、売上高は前回業績予想比 7,868 百万円減の 8,132 百万円（前年同期比 78.3%減）営業利益は前回業績予想比 9,326 百万円減の 8,026 百万円（前年同期は営業利益 3,707 百万円）経常利益は前回業績予想比 9,262 百万円減の 8,812 百万円（前年同期は経常利益 2,950 百万円）当期純利益は前回業績予想比 18,987 百万円減の 22,887 百万円（前年同期は当期純利益 2,294 百万円）を見込んでおります。

（注）上記予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後の様々な要因により、予想と異なる場合があります。

以 上